**7 鷲田清一『からだの幸福』**

【想像力というと、よく論理的な思考力と対比される。感性対理性といったぐあいに、である。が、そのどちらも、いまここにはないもの、不在のものへと向かう心の動きとしては同質である。】〈Ⅰ〉

わたしたちの社会では、生きるうえでもっとも基本的な出来事が、じつは見えない仕組みになっている。わたしたちがふだんしているもの、それがどこで作られ、どういうひとの手を経てここにあるのか、ひとはどのようにして生まれ、どのようにして死んでゆくのかなどのシーンはⓐシヤから隠されている。で、調理された肉を、パックされた食材を、や血液をわれた新生児を、死に化粧をほどこされ正装した遺体をしか、わたしたちは見ない。どういう作業を経て、肉や食材や新生児や遺体がいま、ここにあるのか、それへと向けて想像力がほとんどⓑハツドウしなくなっている。あるいは、たとえば独り暮らしの老人、耳の不自由なひと、不登校の少年は、この世界をいまどんなふうに感受しているか。むかしのひとはどんな衣食住の生活をしていたのか。別の国の住民をいまどんな不幸が襲っているか……。目の前にないそういう出来事や  
ⓒカテイを想像すること、論理的に問いつめてゆくこと、そういう不在のものへの心のなびきのその長さが、だんだん短くなってきているような気がする。〈Ⅱ〉

①それらを思いえがくには、想像力が要る。論理的思考も要る。ここで想像力と論理的思考は、感性か理性かといった②対立をなすのではない。③ともに、不在のプロセスヘの感受性としてある。そういう不在のものへの感受性の根は、他人とともに食べるという経験のなかでⓓハグクまれる。この経験を小さいころに十分にしておかないと、わたしたちは他人への文字どおりの意味での「思いやり」を欠くことになる。いや日々していないと、他人を思いやるやかな気持ちがしだいにⓔトボしくなってゆく。〈Ⅲ〉

もともとは味覚をあらわす「テイスト」という言葉が、人間の趣味や道徳感覚を、濃やかなセンスや判断力を、同時にあらわすのは、きっと偶然ではない。〈Ⅳ〉

問1　二重傍線部ⓐ〜ⓔのカタカナを漢字に直せ。（3点×5）

ⓐ〔　　　　　　〕　ⓑ〔　　　　　　〕

ⓒ〔　　　　　　〕　ⓓ〔　　　　　　〕

ⓔ〔　　　　　　〕

問2　傍線部①「それら」とは何を指すのか。【　】内から十六字で抜き出せ。（9点）

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問3　傍線部②「対立をなすのではない」とあるが、これと同じことを意味する語句を、本文から五字で抜き出せ。（8点）

〔　　　　　　〕

問4　傍線部③とあるが、何と何が「ともに」なのか答えよ。（10点）

〔　　　　　　　　　　　と　　　　　　　　　　　〕

問5　本文には次の一文が抜けている。本文〈Ⅰ〉〜〈Ⅳ〉のどこに挿入するのが最も適当か、番号で答えよ。（8点）

思いをどのようにして向こうに、つまり見えも感じもできない不在の領域に届けたらいいのかわからないから。

〔　　〕

練習問題〈評論頻出語〉

次の語句の意味をそれぞれ後から選べ。

①　帰納 （　　　　）

②　 （　　　　）

③　普遍 （　　　　）

④　 （　　　　）

⑤　抽象 （　　　　）

ア　はっきりした形がないもの。観念的なもの。

イ　いろいろな物事から共通する性質を抜き出すこと。

ウ　一つ一つの具体的な事例から、一般に通じるような法則を導き出すこと。

エ　全体に広く行き渡ること。すべてのものに共通すること。

オ　よいものをとり、不用のものをとりのぞくこと。

【解答】

問1　ⓐ視野　ⓑ発動　ⓒ過程　ⓓ育（まれる）　ⓔ乏（しく）

問2　いまここにはないもの、不在のもの

問3　同質である

問4　想像力（と）論理的思考

問5　〈Ⅲ〉

【練習問題解答】

①ウ　　②ア　　③エ　　④オ　　⑤イ

【50字要約例】

不在のものを知るために必要な感受性は、小さいころに、他人とともに「食べる」経験によって育まれる。（48字）

【補充設問】

問　傍線部●（そういう不在のものへの心のなびき）「心のなびき」と同じ意味として用いられている語を、本文から三字で抜き出せ。

答　感受性